

日建協

第1回 時短アイデア大賞・図画コンクール

事例・アイデア・作品集





活かそうアイデア! みんなで時短!! — あなたの時短いただきます —









活かそうアイデア! みんなで時短!!

— あなたの時短いただきます —

はじめに

日建協では、長時間労働の解消に向けて、「所定外労働時間 月100時間以上の過重労働をなくす」「所定外労働時間の日建協平均を月45時間以内にする」を目標に掲げて取り組んでいます。しかしながら、毎年組合員を対象に実施している時短アンケートによると、私たちの所定外労働時間は、月100時間以上の過重労働をしている方が2割存在し、日建協平均も月60時間を超えているなど、依然として高い水準にあります。

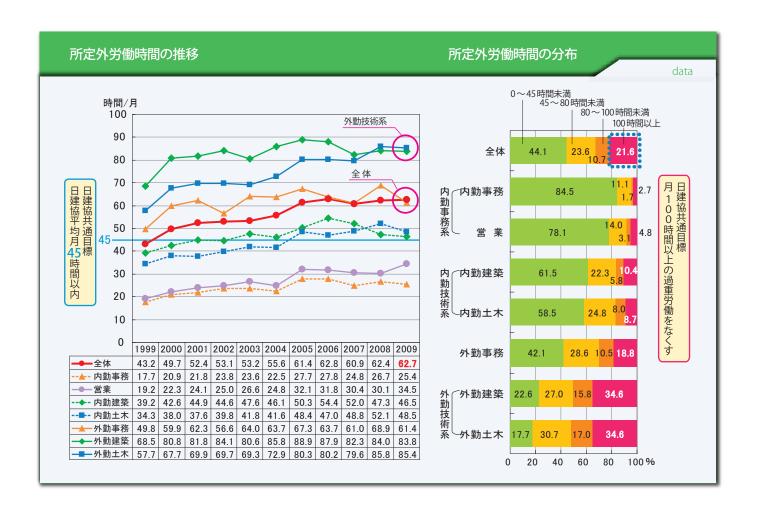
こうした現状で、私たちのワーク・ライフ・バランスを実現し、

心と体の健康を保つためには、時 短推進活動に積極的に取り組み、 長時間労働を改善していく必要が あります。建設産業で働く私たち の経験や知恵を結集して、良い事 例やアイデアを水平展開し、連帯 して時短を進めていくために、こ の度「日建協時短アイデア大賞」 を開催しました。加盟組合の皆さ んから、取り組み事例とアイデア 合わせて100件の応募をいただき ました。

そして、ご家族の皆さんからは 「家族と休みの日にしたいこと」 について図画を募集し、160件の 応募をいただきました。図画に込められたご家族の思いをしっかりと受け止め、ワーク・ライフ・バランスの実現、休日のあり方を考えるきっかけにしていただきたいと考えています。

今回ご応募いただいた事例やアイデアが、建設産業で働く皆さんの時短に取り組む'きっかけ'や'ヒント'になれば幸いです。時短に関する好事例やアイデアがありましたら、ぜひ日建協までお寄せください。

2010年7月



時短アイデア大賞・図画コンクール

Contents

目 次

時短アイデア大賞		帰宅時間申告ボード		
	金賞図画 …未就学	プールでみんなで遊ぼうね!		01
	214.040.3	石でお顔を作ったよ	page	01
時短アイデア優秀賞		私の『休日宣言』		
	金賞図画	もういちどいきたい おきなわりょこう		
	…低学年	ぼくじょうで どうぶつとあそぶ	page	02
時短アイデア優秀賞		ワンデーレスポンス「見える化」で時短推進!		
	金賞図画	パパ また沖縄の水族館に行こうよ		
	…高学年	家族と登った車山	page	03
3,2, ,, , , , ,		ノー残業デーの廃止		
	銀賞図画	パパ ぞうさんのいるどうぶつえんにつれてってね		
	MACIO	家族と水族館に行き、水槽の中をみつめる		
		お父さんとうみでジャンプ	page	04
時短アイデア入選		やってみよう行動		
		デュアルモニターと PC 活用の取り組み		
	銀賞図画	かぞくのお花見		
		家族といくお花見		
		ぼくのたのしみ	page	05
時短アイデア入選		コミュニケーションタイムの導入		
		仕事もプライベートもメリハリ		
	銀賞図画	ほっかいどうの花ばたけにまたいきたいな		
		公園でおべん当 きれいな海で海水浴		$\cap C$
			page	06
時短アイデア入選		統一時限短所運動		
		現場職員のワーク工程管理		
	銀賞図画	お父さんと楽しいキャッチボール	page	07
他作品		入選外の事例・アイデアと図画 page ○8 ~	page	11
リスト		応募者一覧	page	12

大賞

帰宅時間申告ボード

- 目標とする帰宅時間を表示して、帰りやすい雰囲気づくり -



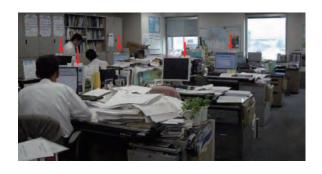
●取り組みの内容

部署内の各自の席 (パソコンのモニター上部) に、スチレンボードで作成した帰宅時間申告ボード を取り付けし、赤色の目印をスライドさせること で、各自が帰宅目標時間を表示します。

各自が帰宅目標時間を設定することで仕事にメリ ハリをつけるとともに、部員だけでなく他部署の方 にも帰宅時間の見える化が図られています。

●取り組みの成果

各自が帰宅目標時間を定めて、仕事にメリハリを つける意識を強くするとともに、各自の予定時刻に





受賞者:シミズユニオン 中村 徹さん

気兼ねなく帰りやすい雰囲気づくりが進んでいます。

●取り組みのきっかけ

約1年前に設計部の部内会議で、残業の多い設計 部で「どうすれば時短をすることができるか」とい うテーマで話し合った際に生まれたもので、若手が 共同で検討や制作を行いました。

●帰宅時間申告ボードに込めた思い

時短のためには、個人への負担を集中させることなく、チーム全体で問題解決し、作業を進めることが大切だと思います。各個人がその日の帰宅目標時間を設定し、それをチーム全体で意識しながら仕事を進める必要があるのではないかという思いから、帰宅目標時間を誰にでも見えるように表示しようと考えました。

シンプルな取り組みですが、時短への貢献度、 取り組みやすさ、親しみやすい印象のデザインと、 審査員から高い評価を得ました。

私たちの職場でも、帰宅時間申告ボードをきっかけに、みんなが声をかけあい、お互いに支援しあい、時短を進め、早く帰れるようにしたいですね。

家族と休みの目にしたいこと: 図画コンクール



「プールでみんなで遊ぼうね!」 高村 梨花さん(年長) 佐藤工業職員組合



「石でお顔を作ったよ」 高橋 柚奈さん(年長) 飛島建設労働組合

優秀賞

私の『休日宣言』

― 休めるように業務をこなす意識と、周囲へのアピール ―



休む日 年月日()

休んでコレをします!!

家族や自分自身で記入

パパ どうぶつえんにつれてって。

MLÜ

●アイデアの内容

作業所の土曜閉所日や、自分が休む予定をした土曜日など、休日に何をするかを、所定の用紙に前月に家族に書いてもらったり、自分自身で書いて、デスク上や作業所の予定表などに表示します。

●期待される効果

作業所では業務量も多く、ついつい溜まった仕事 もあるため、週末に出勤して業務を進めることにな りがちです。

あらかじめ休日の行動予定を立てることで、休日 に向けて仕事を進めるモチベーションを上げること ができます。

家族の声を受けるといっそう効果的であり、「見える化」を図ることで、周囲も巻き込んで時短への取り組みの輪を広げることが期待できます。

●アイデアのきっかけ

以前に現場オルグで時短について議論をした時 に、組合員一人ひとりが現状を変えようとする意志



受賞者:名工建設職員組合 伊與田 尚秀さん

を持つこと、そしてそれを実行することが大切だと いう話がありました。

まずは自分から実行しようと考えた際に、それを 実行するために周りの皆にどう知らせるか、という ことを考えた時に浮かびました。

●休日宣言に込めた思い

「私の休日宣言!」宣言をすることによって休日をとる!という気持ちが狼煙として周りの皆さんに伝わるように、また周りの皆さんにも広がり、職場の中でワーク・ライフ・バランスの実現の一助になったとしたら、嬉しく思います。

家族も巻き込んで生活を大事にしようという時短 意識高揚への期待、取り組みやすさなどで高い評 価を受けました。

各職場での取り組みでは、書式などを工夫して みたらどうでしょうか。 イラストを描いたり、写真を 貼りつけたり、お互いに見比べてみるのも楽しい かもしれません。





「もういちどいきたい おきなわりょこう」 大澤 明日香さん(小学2年) 飛島建設労働組合





「ぼくじょうで どうぶつとあそぶ」 槇島 未羽さん(小学1年) 飛島建設労働組合

優秀賞

ワンデーレスポンス「見える化」で時短推進!

ワンデーレスポンスと付箋を使用したコミュニケーション —



●取り組みの内容

作業所内にワンデーレスポンス掲示板を作成し、各自が 業務内容を記入した付箋を貼っていきます。「誰がどれだけ の業務を抱えているか」「その期限はいつまでか(赤色の欄 =当日、黄色の欄=一週間以内、青色の欄=来週以降)」を 全員が分かるようにされています。

●取り組みの成果

若手にとっては、先輩に直接に話し辛いことも付箋に書くことで表現しやすく、誰にも言えずに業務を抱え込んでしまうことが少なくなって、業務の平準化やサポートによって、労働時間短縮につながります。





受賞者:大和小田急建設労働組合 廣垣 大祐さん

ワンデーレスポンスに作業所と関連部署が連携して全社で取り組むことで、工事が円滑に行われるようになります。 また、顧客対応も早くなり、サービス向上につながります。

●取り組みのきっかけ

顧客満足の観点から、現場・営業・設計の連携強化が課題となっており、ワンデーレスポンスの重要性を作業所長から社内に発信していました。これを社内に浸透させるために、まずは作業所内で出来ることはないかと考えられたのが、「ワンデーレスポンス掲示板」です。

●取り組みのメリット

ワンデーレスポンスは質問や協議に関して「24時間以内に回答または回答予定日を示す」もので労力を要します。しかし、掲示板を使用して「見える化」することで突発的な問題に対しても、作業所長は誰に依頼すべきか、全員で対応すべきかを判断することができます。

付箋に書くことで、若手が直接言いづらいことも 発信しやすくなること、情報を共有化することで業 務の平準化に機能するということで貢献度と印象 度が高く評価されました。

実行にパワーが必要そうですが、実行できれば時短効果はかなり高いと期待される取り組みです。

家族と休みの目にしたいこと: 図画コンクール



「パパ また沖縄の水族館に行こうよ♡」 関 笙華さん(小学6年) 三井住友建設社員組合



「家族と登った車山」 高橋 若奈さん(小学5年) 飛島建設労働組合

入選 员



土曜閉所前日ノー残業デー

土曜閉所前日は早く帰り週末に備える

受賞者: 名工建設職員組合 生川 勇志さん

●取り組みの内容

月1回の土曜閉所に合わせて、前日の金曜日は残業せずに 定時で帰る取り組みです。

●取り組みの効果

翌週月曜日の準備等もありますが、翌日が休みということ もあり、職員も意識して手配・準備を行うようになり、最近で は、ほぼ定時で帰れるようになりました。

●取り組みのきっかけ

当該作業所では、毎月第二土曜日を閉所日としています。 水曜日のノー残業デーは意識していても、週半ばである水曜 日に職員が定時で帰るのが難しい状況であったため、この金 曜日の取り組みを開始しました。

●取り組みへの思い

現在、月1回程度のノー残業デーの実施に留まっています が、自分たちでできることから始めることが大切だと思いま す。そして、「早く帰る」という意識付けをしていくことが重要 です。

実用性、時短への貢献度、継続性が評価されまし た。

皆さんの作業所においても、まずは統一土曜閉所の 前日などをノー残業デーにして有意義な週末を過ごし てみませんか。

入選 💮



-残業デーの廃止

残業が「あたり前」の意識を変える

受賞者:間組職員労働組合

中村 雄二さん

●アイデアの内容

「ノー残業デー」ではなく、「残業デー」「頑張るデー」を設定

毎日が残業デーになってしまわないように、一人ひとりに 1か月あたり16日分(1週に4日分)の「残業デーカード」を 付与することにして、残業する場合は、上司に「残業デーカー ド」を渡して許可を得るといった管理を徹底させるアイデアで す。

●アイデアのきっかけ

残業を無くすためには、そもそも「所定内で仕事は終える もの」で「やむを得ず残業している(させている)」という認識 を、皆がもつことが大切です。

そこで「ノー残業デー」という、あたかも「日常、残業がある のは当たり前」で週1日は残業しないで早く帰ろうという発想 を逆転し、『やむを得ず今日中にやならければならない仕事が あるから、今日は頑張って残業しよう』という方向に転換するこ とを考えました。

残業があたり前になってしまっている意識への問 題提起として、「残業デー」「頑張るデー」を設定する 独創性と印象度が評価されました。

银賞



「パパ ぞうさんのいる どうぶつえんにつれてってね」 関 穂華さん(4歳) 三井住友建設社員組合

銀賞



「家族と水族館に行き、水槽の中をみつめる」 加藤 草太さん(3歳) 五洋建設労働組合

銀賞



「お父さんとうみでジャンプ」 宇賀神 成美さん(5歳) 馬淵建設職員組合

入選 🖶

やってみよう行動

業務効率化に向け、できることから

受賞者:戸田建設職員組合

●取り組みの内容

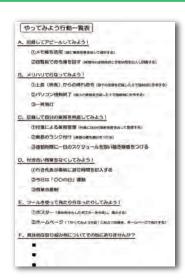
組合活動をつうじて集まった情報を集約して、業務効率化 を行うための「やってみよう行動一覧表」を作成しました。そ して、職場会資料として配布し、職員一人ひとりに行動を促し ました。

●取り組みのきっかけ

年々悪化する就業環境の改善に向けた時短への取り組み について、初めの第一歩として「できることから」ということ で取り組みを開始しました。

●取り組みの効果

少しづつではありますが、職場からは「業務効率化に向け ての意識が芽生えてきている」との意見が出てきています。



取り組みやすさ、 時短への貢献が期 待されるということで 評価されました。 皆さんの職場でも これを機会に話し合

い、できることから

「やってみよう!」

受賞者:フジタ職員組合

デュアルモニターと PC 活用の取り組み 入選 🖶

画面を複数化して、手間と時間を削減

●取り組みの内容

パソコン1台にモニターを2台設置して使用することで、画 面の切り替えの手間を削減します。

●取り組みの効果

最近はパソコンを使用して業務を進めなければならない ものも多く、パソコン上でデータを見ながら、別のソフトに数 字や文章を入力することが多くなってきています。 画面を同 時に見ることを可能にすることで画面の切り替え無しで作業 を快適かつ効率的に進めることができ、時間短縮につながっ ています。

またデータを直接参照することで、印刷用紙を削減するこ とができ、エコや印刷用紙代の節約にもつながります。



実用的であり、時短への貢献度が高いと評価さ れました。フジタ職員組合からは、多くの方からこの デュアルモニターに関するアイデアその他IT活用の 取り組みなど応募をいただきました。

銀賞

家族と休みの目にしたいこと: 図画コンクール



「かぞくのお花見」 細野 朝子さん(小学2年) シミズユニオン



「家族と行くお花見」 寺田 晴香さん(小学3年) フジタ職員組合



2000

洸樹さん (小学2年) 五洋建設労働組合

page ()5

入選冊 コミュニケーションタイムの導入

-コミュニケーション能力の向上で効率化 -

藤井 猛さん

受賞者:フジタ職員組合

●アイデアの内容

労使共催で、コミュニケーションタイム(以下「コミタイム」) を導入します。

- (1) 目的: 社員のコミュニケーション能力の向上
- (2) 内容:①頻度 週1回
 - ② 時間 30分程度(業務時間中)
 - ③ 概要 他部門とのコミュニケーション
 - ④ 話題 特に制限しない

●予想される効果

コミタイムを繰り返すことで、最終的に社屋内の全社員と コミュニケーションを図ることができます。

その後、業務上の関わりあいがあった時には、お互いを知っ た上でのコミュニケーションになるため、スピード(送り手側の 伝える情報量の削減、受け手側の理解力の向上)が上がり、時 間外労働の削減につながると考えられます。

●アイデアのきっかけ

企業の活動には、コミュニケーションが不可欠です。コミュ ニケーション不足は、企業にトラブルを招き、損失につながっ たり、業務遂行を滞らせたりします。社員(組合員)が、コミュニ ケーション能力を身につけることで、そうしたリスクを軽減する ことができると考えました。

実用性や印象度が高く評価されました。このコミタイム や、各種懇親会等を通じてネットワークを広げましょう。 もちろん組合活動への参加も有効ではないでしょうか。

入選冊 仕事もプライベートもメリハリ

作業所全員の意識も変わる

●取り組みの内容

作業所において、社員全員で月間・週間単位の中長期打合 せを毎週木曜日の18:00から実施、翌日の作業の最終確認を 毎日10:30から実施しています。

打ち合わせにおいて、作業間調整だけでなく、各個人の業 務確認も実施し、私用を含めた退社時刻や休暇予定も申告 し、事前に周囲に告知しています。

●取り組みの状況

恋人が平日休みの計員に平日振替休暇を取得させるなど、 作業所長が率先して休みやすい職場環境づくりを実践してい ます。

●取り組みの効果

『良いことも悪いことも風通し良く、手順を守って作業しよ

う!』をスローガンに、作業所では円滑なコミュニケーションが 図られ、帰りやすく、休みやすい雰囲気がつくられています。

受賞者:戸田建設職員組合 森田 誠さん



この事例は、実用性や継続性が高く評価されまし た。打合せの開始・終了時刻が遅くならないように気 を付けて、意識と雰囲気を変えるこうした取り組みを してみませんか。



「ほっかいどうの花ばたけに またいきたいな」 尾石 ひなさん(小学2年) 淺沼組職員組合

銀賞



「公園でおべん当」 朝比奈 希咲さん(小学5年) JSユニオン

銀賞



「きれいな海で海水浴」 槇島 芽生さん(小学4年) 飛島建設労働組合

入選 🖶

統一時限短所運動

統一土曜閉所に続く新たな提案

受賞者: 鉄建建設職員組合 奥田 大輔さん

●アイデアの内容

作業所において、以下のような取り組みを行います。 <まずはじめに>

(1)月の目標となる『残業削減時間』を設定する。

その時間をクリアするために必要なノー残業デーを算出 する。

例) Aさんの場合

残業時間 60時間/月

残業削減時間 20時間/月

Aさんは10時頃まで残業しているので、5時間/日 ⇒1か月に4回のノー残業デーを設定する。

- (2) 簡素化のため、ノー残業日の回数で目標管理する。
- (3)土曜日休んだ場合も、2回分などでカウントする。
- (4)残業時間は個人差があるが、削減時間は作業所で統一す る。

<運用開始後>

(1)月間工程及び週間工程作成時に所内打ち合わせし、残業

しない人を決める。予定日の変更は柔軟に行うが、回数は 必ず守る。

- (2)何時間短縮できたか、短縮できた時間で何を行ったか追 跡調査アンケートを行い、作業所や個人の取り組みを取り 上げて、業界紙等で広報する。
- (3)「デートをした」「身体を休めた」などの声もWLBにつな がる。

言葉にすることで個人もWLBを意識することができる。

●アイデアのきっかけ

●取り組みの効果

統一土曜閉所運動に加えて新しい取り組みとして、作業所 毎に削減時間を決めて取り組む、時間短縮の運動を提案した。

アイデアの独創性と印象度が評価されました。作 業所で削減目標を設定して取り組んでみませんか。

入選 🖶



現場職員のワーク工程管理

仕事の平準化で時短推進

●取り組み内容

毎週金曜日、作業所の全職員で、翌週の工程確認を実施し た後、自分が「現在行っている仕事」と、「今後行う仕事」を紙 (週間ワーク工程) に書き出します。会議や検査、外出予定 等だけでなく、事務的な仕事とその期限を記載します。

その内容を全員で確認してから、優先順位をつけ、個人の 仕事量に偏りがないか、他の人がフォローすることが可能か を話し合います。

事務的な仕事を含め、全員の仕事を平準化したり、フォロ

受賞者: 名工建設職員組合

伊藤 竜宏さん

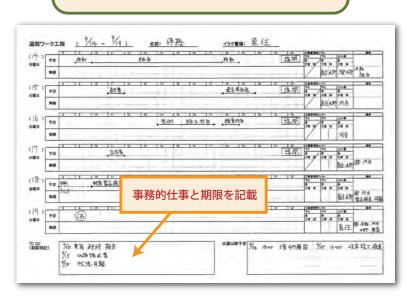
一することにより、労働時間短縮を進めることができます。

書類の工程管理、作業量の平準化を進め、職場全 体で時短に取り組んでいるということで、貢献度、 実用性、継続性が高く評価されました。

家族と休みの目にしたいこと :図面コンクール



「お父さんと楽しいキャッチボール」 太田代 蒼真さん(小学6年) 鉄建建設職員組合



他にも多くの事例やアイデアが集まりました!!

ノー残業デーの実施

≪事例≫

「作業所長が率先して取り組む」

終業後、目立つところに「本日業務終了」という看板を掲げる。作業所長が宣言し、所長自ら施錠をして帰宅している。

「給与支給日はノー残業デー」

給与支給日をノー残業デー、一時金支給日を「『スーパー』ノー残業 デー」として、館内放送と社内声かけ運動を労使で実施している。

≪アイデア≫

「館内放送の徹底、メール送信」

本社や支店はノー残業デーの館内放送、メール送信を行う。

「ノー残業デーの設定打合せ」

毎週月曜日に職場毎に設定会議を行う。相互の業務状況の把握 や、扶助促進を図り、ノー残業デーを設定する。コミュニケーション の向上も期待できる。

「ノー残業デーバッジを付ける」

個人でその日は残業せず帰ることを表示し、周囲は配慮をする。

「水曜日はノー残業デー」

毎週水曜日の昼食をカレーとし、「カレーの日=ノー残業デー」として、早く帰ることを習慣にする。

休暇取得推進

≪事例≫

「周囲へのアピール」

家族の写真を机に飾り、周囲にアピールすると、周囲が家庭的と噂を広めてくれる。趣味の写真でも、休みを取りやすくなる。

「カレンダーは、『月曜→日曜』型を使用」

「働くために休む」ではなく、「休むために働く」意識が生まれ、時短 意識の向上につながっている。

≪アイデア≫

「打ち合わせ時に休暇の調整」

作業所に「休日取得推進ボード」を設置、月末の打合せ時に翌月の 休暇について調整する。

「記念日休暇の取得」

子供の授業参観や家族の誕生日を年間スケジュールに入れて、休

日取得やノー残業デー予定として年度初めに上司に報告する。

「内勤業務における年休取得」

外勤者が休めていないため、内勤者も年休を取得しづらい。部署 方針で月1回の年休取得または半日休暇を推進する。

「業務連絡調整会議」

毎週水曜日の夕方に、業務の報告と次週の業務内容の調整を行う 会議を30分程度実施し、終了後は残業せず業務完了とする。

帰宅時間を早める

≪事例≫

「週間予定表の有効活用」

事務所内にある週間予定表に、毎日の帰宅時間を週初めに記入する。帰宅時間を記入することで、周りの人にも各自の予定が明確になるため、帰りやすい環境を作ることができた。

≪アイデア≫

「終業時刻のアラーム設定」

終業時に目覚まし時計や携帯電話が鳴り響くように各自設定する。 残業の際もアラームを再調整し、定時の意識と、時間管理の意識を 強める。

「10時15時のチャイム」

10時と15時に時間を知らせるチャイムを鳴らす。

適宜休憩をとるなどして、メリハリをつけて仕事に集中する。終業時間前にも音楽があればより効果的。

「はと時計の設置」

残業中は時間を気にせずダラダラ仕事になりがち。 30分単位等で時間が過ぎていくのを認識するようにする。

「時間外業務理由書の提出」

上司が部下の把握がしやすくなる、長時間労働の要因をつかむ、 煩雑さからその日はやらずに休もうと思う。

「1日の残業時間の上限設定」

1日2時間を上限とし、ダラダラ残業を無くす。

「アフター5を充実させる(特に独身者に)」

習い事や飲み会の予定を入れ間に合うように集中して生産性を上げて業務を進める。生活に対する充実感も得られる。





































職場環境改善と職場サポート

≪事例≫

「社内帳票の書式統一」

業務効率改善活動として、労使で社内帳票の書式統一に取り組んだ。帳票集をつくり一元管理している。

「ホワイトボードの活用」

大型のホワイトボードを全職員が見えるところに設置し、気付いた ことなどをメモ書きした。情報の共有化や、声かけ・フォローができ た。

「現場巡回支援による時短推進」

各現場を希望日に支援者が半日単位で巡回支援し、日常書類ファイリングや安全書類の整備等各種支援を行う。

「休日の交代取得」

近隣現場をグループ化して、交代で技術者が支援を行い、忙しい現場の技術者が休暇を取れるようにした。また、内勤の技術者も支援を行った。

≪アイデア≫

「内業・書類業務の分担化」

作業所負担は増加気味である。各社取り入れつつあるが、集中購買の価格決定、事務処理の一括処理、統括安全書類の管理等 簡素化、分担化を行う。

「退職者等経験者の活用」

作業所業務では、「書類作成」や「データ入力」が重い負担になっている。退職者等経験者を活用することで、係員の負担軽減や技術 (ノウハウ) の伝承を図る。

「今日の電話当番」

事務所内では電話等で業務が度々中断し、集中できないことが多い。比較的落ち着いた状態の人を電話当番に指名し、仕事に集中する環境を事務所全体で整える。

「業務には正・副の担当者」

部署では、自分だけ忙しかったり、隣の人だけが忙しかったりする 時期がある。業務を平準化することで残業を減らす効果があるよう に思うので少しづつ業務をラップすると良い。

仕事の手順・段取り

≪事例≫

「事務所への往復時間の削減」

現場に2坪のプレハブ小屋を設置し、パソコンを使える環境を整備することでデスクワークを事務所に移動せずできる。現場作業と並行して内業を進めることができる。更にインターネット・メール・コピー等もできる移動現場事務所「モバイルオフィスカー」を制作した。

「通勤時間の有効活用」

1日のうち1時間は通勤電車に乗っている。この時間を簡単な資料のチェックや、仕事の準備メモ等の作成など、有効活用している。

「始業前の時間活用」

仕事のリズムを夜型から朝型への転換を心がけ、始業 1 時間前に 出社している。当日の業務予定の整理、優先順位付けを行うこと で、作業ロスを減らし、時間の有効活用ができる。

「打合せ時刻の限定、打合せは午後に」

作業所は8時朝礼開始で、現場巡回後に事務所へ戻ると10時頃になる。翌日作業のための職員打合せが11時からなので、各種打合せは午後に設定し、余裕を持って行う。一日のスケジュールが立てやすくなった。

「締め切りを前倒しで業務開始」

従来は、月間スケジュールに締切日のみ記入し、締切日が近づいて 作業するため、残業することが多くあった。

- ①業務のボリュームがあるもの、締切日が明確なもの
- ②比較的締切日が緩やかなもの
- ③それ以外に当月中に終わらせるもの
- の順で記入し、余裕を持って業務に取り組んでいる。 時間のあるときに、③の業務を前倒しするようにしており、休日出 勤を減らすことができた。

「時間割の検討をする」

- ①来週の仕事で何を行なけれればならないか考える。
- ②来週までに仕上げる仕事を箇条書き、日付を入れる
- ③前日に、明日の仕事を考え、終了時間を決める
- こうすることで無駄に時間を使わなくなった。

《アイデア》

「昼休みに時差を設ける」

昼食混雑時間を避けることで、昼食時間の効率を高める。

「時間差始業」

設計では施主の急な要望や、関係部署の急なリクエストで残業が 深夜になることも少なくない。深夜残業の翌日は、時差通勤を設け てはどうか。休養することで生産性高く業務ができる。

「集中しタイム(頑張るタイム)」

部署毎などで、1日の1時間だけ私語はもちろん電話の取り次ぎ、 業務依頼等も受け付けずに集中する。

「報告だけなら会議は開かない」

会議で報告だけで終わってしまう内容も少なくない。報告に終始する会議はメールで代用する。

「会議時間の設定」

各種会議体、会合に際してあらかじめ時間設定する。

「時短当番制」

宿直などと同様に早く帰る当番を決めて、ローテーションで時短に 取り組む。

「工程段階からの土曜休日の配慮」

マスター工程表作成時から土休の配慮を行う。月間工程、週間工程にノー残業デーも配慮を行う。























情報の共有化

≪事例≫

「社内イントラを利用した作業所情報の開示」

作業所同士では日常やり取りが無く、支店を仲介して情報を得 ることが多かったが、情報を集約した一覧表を作成し、社内イン トラで開示している。(什器・備品情報他)

「工程表、図面等のデーター元化」 工程表、図面等のデータをネットワーク型の外付ハードディス クに入れて情報を共有化することで、誰でも情報が取り出せ、 各々の仕事が中断されることが少なくなった。

≪アイデア≫

「書類の共有化」

作成した書類を他現場で使用できるように、共有できそうな書 類は、共通のサーバーで保存し、書類作成時間を短縮する。

パソコン等の活用

≪事例≫

「エクセルの読み上げ機能で効率化」

エクセルの機能である音声読み上げツールを使用して、数字を チェックする。二人一組での読み合わせが不要になり、時短につ ながる。

「クラウドサーバーを使用しての情報伝達の省力化」

クラウドサーバー(インターネット上でデータを情報共有できる記録スペース)をつうじて、各種情報を共有する。情報伝達を スムーズにし、告知や報告にかかる手間を省力化、時短につなげ

「メールフォルダーの活用」

受信トレイにフォルダーを細分化して作成し、メールの用件が 完了するごとに各フォルダーにメールを移動する。受信トレイ に未解決のメールだけが残り、すっきりと業務を進めることが できる。

「メッセージ仕訳ルールの設定」

受信トレイにフォルダーを作成後、仕訳ルールを設定する。メー ルマガジン等不急な情報は、自動的にフォルダーへ振り分けて

《アイデア》

「労働時間の実態把握」

パソコンのオン/オフログに基づいて、出社時刻、退社時刻を自 動的に記録し、自動計算する。出退社時間、労働時間、所定外労働 時間等をグラフ表示し、意識付けを行う。

ファイリングによる、資料捜索時間の短縮等

≪アイデア≫

「紙ファイルを色分けし、優先順位を付ける」

優先順位の高いものを赤いファイルに保存し、そこから取りか かる。同時に多くの書類は保管できないので早く片付けようと 意識するようになる。

「カラーファイリングによる捜索時間の短縮」

進行中の営業案件は「赤」、社外委員会は「緑」、業務管理は「黄」の ように分けておくと、ファイルの捜索時間が短縮できる。

「書類整理は定期的に」

手元資料を月末など定期的に整理しておくことで、日常の書類 探索にかける時間を削減できる。



19 R

営業マンも取り組み中

≪事例≫

「メールの携帯電話への転送」

外回りの営業職では、1日以上メールを確認できないこともあった。メールを携帯電話に転送することにより、早い対応ができ、時間を有効に活用できるようになった。

「得意先訪問は効率的に」

得意先で距離が近いところは同日にアポイントをとる。また移動ルート上にある得意先も廻ることで、時短だけでなく交通費削減にもつながっている。

表彰による意識・意欲向上

≪アイデア≫

「年間・月間WLB工程表(カレンダー)の掲示」

作業工程とともに、職員のWLB達成度を棒グラフなどで掲載する。達成度が優秀な職場は、表彰し、社内イントラ等で広報し、モチベーションアップの効果を狙う。

「休暇取得マネジメント表彰制度」

休暇取得推進を行い、優秀なチームには社内表彰を行う。

~番外編~

≪行政・発注者への要望等≫

「時間外労働に対する割増賃金率の引き上げ」

人件費が増加するため時間外勤務が抑制される。併せて労働基準監督署の指導を強化する。

「技能労働者の月給制推進」

技能労働者の待遇を改善し、日給月給制でなく、月給制を推進しする。業界全体の完全週休2日制を目指す。

「発注者への時短呼びかけ」

業務時間外に緊急対応以外の電話連絡等をしないように呼びかけて欲しい。対応せざるを得ずに困っている。

「発注者書式の統一化」

仕様書及び検査項目等、統一化されると現場が変わっても対応 でき、時短につながる。

≪その他≫

「レクリエーションで時短推進」

計画を立て職場全員でボーリングやカラオケを行い、ストレス 発散と時短推進を図る。

「自分にご褒美デー」

毎月1日は「映画の日」など割引日の特典を有効に活用するため、早く帰る日を決めて、仕事を効率的にこなす。



~時短アイデアに応募して下さった皆さん~ 取り組みへの参加、どうもありがとうございました

今中 史紀	安永 雅樹	蔭山 秋樹	斎藤 誠	鈴木 智草	金原 恵二	福田 就一	今村 雅泰
沢田 英一	藤枝 裕介	林 洋在	池内 俊裕	花井 敦	仲本 裕久	河村 賢一	近藤 基
中尾 和登	牧 隆浩	奥田 大輔	藤井 猛	成見 博樹	小佐野 卓也	斉藤 民雄	湯本 尚
油谷 浩之	加藤 正人	中村 雄二	塩田 耕司	岡田 晃一	北山 大	神野 洋	小山 智久
寺田 慶太郎	伊崎 貴文	山田 勝英	大髙 賢一	太田代 哲	村上 拓也	青柳 克宜	廣垣 大祐
竹林 和	森田 誠	宗像和雄	木澤 英樹	志村 雅和	吉田豊	生川 勇志	吉田 尚文
伊藤 純一	中嶋 奈弓	中島 慎吾	末永 雅一	桑田 靖子	佐藤 健	出田 敬太郎	金田 明之
伊與田 尚秀	松村 健司	遠藤 弘文	小森 美穂	伊澤 開次郎	伊藤 竜宏	太田愛	木澤 英治
郷田 孝樹	高野 有哉	秋友 唯史	高橋 和久	吉岡 潤一郎	棚橋 識正	高原 健太郎	
舘 正志	倉本 行庸	長江 洋延	小野 道和	隈部 祐二	中村 徹	佐藤 健太郎	
小林 拓也	桐木 俊之	江原 宏	近江 佳世	上坂 大輔	赤井 泰介	石橋 稔	

~図画コンクールに応募して下さった皆さん~ 家族と過ごす休日への思いをありがとうございました

加藤 あかり 棈木 瑛斗 柳 幸士朗 藤枝 杏奈 八波 りお 稲田 廉 佐藤 響 上村 りゅう太 石井 菜々子 小佐野 美俐 橋詰 咲希 牧野 邦香 三宅 真祐子 石原 大夢 華音 吉田 村上 涼雅 金澤 桃子 矢澤 美海 鈴木 秀和 山田 萌生

髙橋 柚奈 田中 佑弥 武藤 桜愛 北山 美知子 秋友 麻帆 矢澤 美空 谷口 優樹 堀 圭佑 湊 遼八 野田 光希 石井 聖也 片野坂 優希 赤井 仁 宇賀神 成美 鈴木 愛佳 大櫃 比呂 金澤 陽一郎 久保 歩実 杉浦 康平 原屋敷 紗杏

加藤 草太 大塚 陽 中山 陽 村上 泰雅 高橋 唯 渡辺 じゅんや 松野 縁 那須 雄登 大塚 ひまり 松尾 咲矢子 近藤 大暉 稲垣 亮汰 江口 葵 井手口 柊哉 堀 結輝 大髙 駿輔 阿保 秀和 杉浦 慶士 伊藤 凌生 近藤 颯太

伊藤 歩夢 伊藤 颯一郎 出田 航大 尾石 ひな 杉浦 みずな 福田 若菜 福井 啓介 谷口 さくら 安田 汐里 湯浅 咲希 柳 匠一朗 福井 晃貴 関 穂華 片野坂 應明 田中 康太 高村 梨花 伊崎 夏穂 槇島 未羽 林 拓未 宇賀神 茜

田村 洸樹 西尾 吉晴 原木 康志 江口 楓 原屋敷 佑大 中山 敢太 尾石 瑠依 矢澤 彩季 大澤 明日香 稲垣 匠悟 朝比奈 元哉 福田 紗菜 井手口 菜摘 田澤 歩実 髙橋 若奈 齋藤 咲椰 阿保 伸尭 佐藤 綾香 赤井 楽 出田 結友

矢澤 真 阿部 怜奈 吉田 朋華 関 笙華 細野 朝子 日暮 悠人 髙橋 奈月 寺田 **晴香** 百花 高村 吉岡 ゆりか 湊 南々帆 吉岡 純輝 田中 芽吹 稲田 輝 佐藤 ひなた 藤澤 佑斗 槇島 芽生 生川 愛実 日下 結莉乃 吉田 千華

牧野 有紗 野田 千優 藤枝 健太 大櫃 蒼生 沢田 健 朝比奈 希咲 橋詰 竜人 松尾 柊佑 岡田 京果 鈴木 陽彩 中山 桜 中尾 結咲 藤村 優介 吉田 美桜 藤澤 七望 北山 朋裕 山田 帆乃佳 松原 大河 太田代 梨帆 小佐野 賢太

栞音 佐藤 原木 雅 西尾 政乃輔 平田 樹生 棈木 真生 吉岡 毅流 松尾 薫 林 優斗 大石 沙和 伊藤 綾音 稲田 莉央 林 芹菜 阿部 祐花 三待 紗希 石井 達也 福田 光佑 上村 裕一郎 應治 友佳 太田代 蒼真 田澤 和成

(順不同・敬称略)









































